

留学生相談指導の取り組み

企画推進部門 国際プログラム

藤井 桂子

留学生の相談指導には3つのアプローチがあると考えられています¹。

ひとつは、何か問題が生じたときにその解決を支援する問題解決的アプローチです。日本社会への適応の問題や、修学上、生活上の問題の相談があったときに、情報を提供したり、助言を行ったり、対応を手伝ったりするものがこれにあたります。この活動を円滑に行うためには、学内外から情報を入手したり、また必要に応じて支援のリソースとなる関係者、関係組織と連携して対応することが大切になります。

二つ目のアプローチは、予防的アプローチと呼ばれているもので、問題が生じないように、あるいは大きくなるように、事前に情報を提供したり、仕組みを設けたりして、環境を整えていくことです。渡日間もない留学生に対して、大学生活や日本での生活についてのオリエンテーションを行ったり、ガイドブックやホームページで情報を発信したりするほか、留学生を支えるネットワーク形成のために、交流の場を設けることなどが、問題を予防する活動としてあげられます。これらは、母国の家族や親しい友人と離れ異国に来る留学生が、新しい場所で生活していく上で必要な情報を知り、また、身近に知人や友人を得て、その協力や精神的な支えによって、自立して行動できるようになるための支援ということができます。

三つ目のアプローチは教育的アプローチです。二つ目の予防的アプローチともつながるものですが、異文化間教育の観点に立ち、留学生に対する教育だけでなく、留学生の周りにいる日本人学生や教職員あるいは地域ボランティアなどに対しても教育的な活動を行おうとするものです。留学生に関する情報を知らせたり、留学生自身も発信者となる場を設けたり、また実際の交流から異文化間でのコミュニケーションの方法を体験的に学び合う機会と作るなどして、相互理解を深め、互いが支え合い高め合う関係が築かれることを目指すものと言えます。特に若い日本人学生へのアプローチは、留学生への支援という観点からも、グローバル人材育成という観点からも教育的意味合いが大きいと考えられます。

留学生センター生活指導部門では、以下1から5に示すような相談指導に関わる活動を行ってきましたが、上記の3つのアプローチを踏まえた取り組みになっていると言えます。留学生が相談しやすいよう、留学生センター内に学生をスタッフとする留学生交流・相談室105を設けたほか、ホームステイ体験プログラムの実施や個別日本

語支援の紹介、ハンドブックの作成などで、留学生を周りの人々をつなぐ予防的、教育的活動の拡大に努めると同時に、活動の継続にも努力してきました。詳細については、本論叢の活動報告を参照して頂きたいと思います。

1. 留学生センター所属の研究留学生および全学の留学生を対象とした相談指導
 - ・研究留学生に対する渡日前連絡と渡日直後のオリエンテーション、個別面談、相談指導
 - ・全学の新生留学生に対するオリエンテーションでのアドバイス、相談活動
2. 学生をスタッフとする留学生センター交流・相談室 105 の運営
 - ・学生スタッフの指導と育成、交流行事開催に対する助言と支援
3. 地域ボランティア団体との連携による留学生交流と支援
 - ・個別日本語支援の仲介、日本文化体験行事、ホームステイ体験プログラム、就職活支援、家族のための日本語教室
4. 留学生交流と支援のための情報の発信
 - ・留学生ネット運営、冊子等の配布（留学生のための学内窓口、学内外交流行事リスト、留学生との交流ハンドブック、地震対策情報カード等）、チューター説明会への協力、HP のアップデート
5. 学内の留学生支援担当者や留学生グループとの継続的なコンタクト

限られた人員で留学生の相談指導を行っていくこと考えると、予防的アプローチや教育的アプローチに力を入れ、留学生が身近な人たちの協力を得て自立して行動できるように導いていくことが今後ますます重要になってくると思われます。これまで行ってきた上記の取り組みの大半も、そのことを目指し行っているものです。いくつかの具体的な成果としては、105 が開催する交流行事への留学生・一般学生双方の参加者数が大幅に伸び、個人的な学生同士の交流も活発になっていること、105 の学生スタッフが留学生達と将来にも渡るような友人としての関係を築き、互いが友人として支え合い、成長していく姿を目にすることなどがあげられます。しかし、一方で、交換留学生など一目で留学生とわかる一部の留学生にしか目が行かず、大多数を占めるアジアからの留学生の存在に気がつかない学生も見受けられます。留学生からはさらなる交流を望む声が少なくありません。一般学生に留学生のことをもっと知ってもらう必要があることをあらためて感じます。

来年度は、あらたな試みとして、他の教員と協力してオムニバス形式の「留学生支援入門」という授業を教養教育科目のひとつとして行う予定です。一般学生が、留学

生を支援することきっかけとして留学生と関わりを持ち、交流を重ねる中で、異なる文化背景を持つ相手に対するコミュニケーション能力や対応能力を互いに高め成長していくことを目標とするものです。これまで、日本人学生と留学生との交流を推進するために、「留学生との交流ハンドブック」を作成し、留学生交流・相談室（105室）の学生スタッフやチューターや留学生寮のレジデントアシスタントの指導に用いるほか、国際交流サークルなど留学生と接する学生達に配布してきました。ハンドブックには留学生と交流する際に知っておいてほしいことをコンパクトにまとめてありますが、今回の授業では、範囲を広げ、日本語教育や異文化コミュニケーション論、また日本の社会や文化を発信していく方法論などについての講義を行うとともに、実践活動を組み込んでいく予定です。授業を行うことで、これまで留学生にはあまり関わりのなかった一般学生にも支援や交流への道を開き、学内における留学生との交流をさらに推進し、グローバル人材育成にもつなげていくことを目指したいと思います。

¹白土 1999 「異文化間教育としての留学生アドバイジング」 『異文化間教育』 13号、30-50